

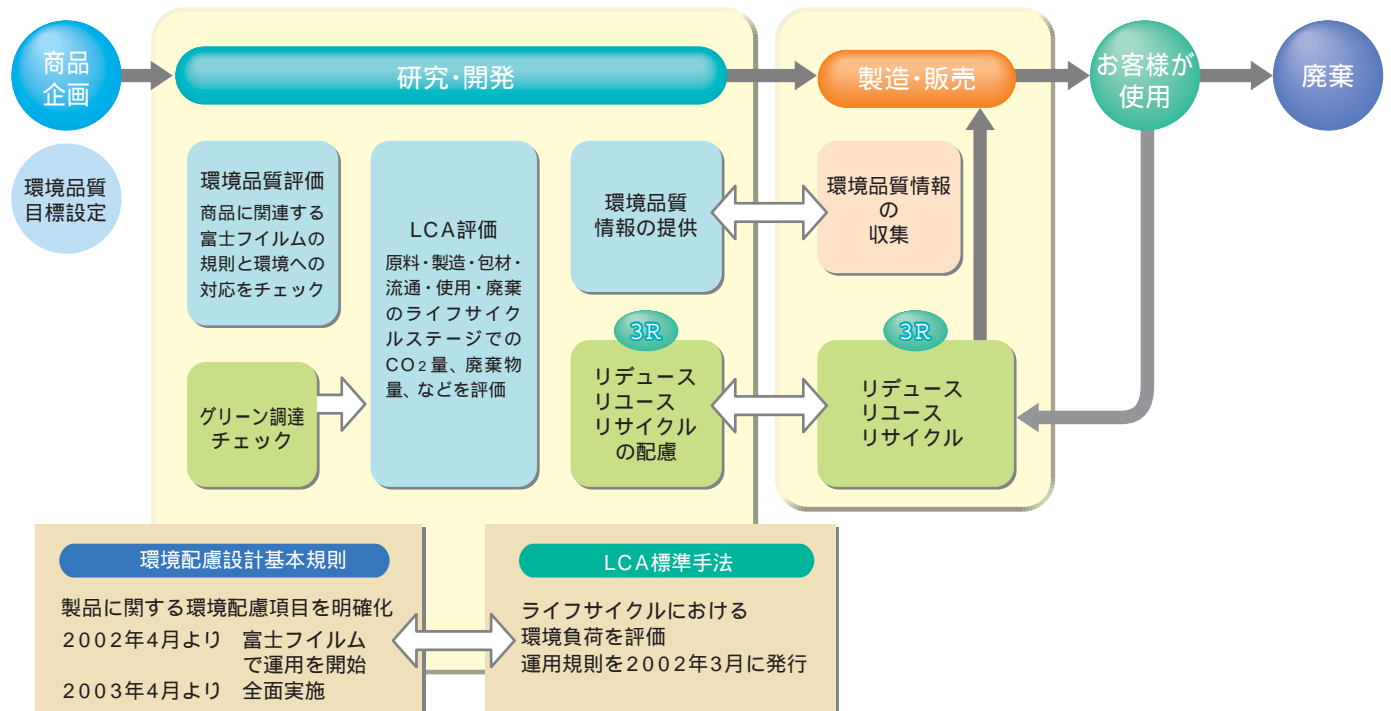
環境配慮設計

環境配慮設計のしくみ

循環型社会形成推進法に関連し各種リサイクル法が制定されているように、製品における環境配慮は循環型社会の実現のために不可欠なことであり、企業にとっても最も重要な課題です。富士フィルムでは、これまでも環境配慮製品の開発に積極的に取り組んできました。この取り組みを更に

強化するため、全製品に共通に適用できる環境配慮設計のフレームワークを見直しました。

富士フィルムの環境配慮設計基本規則に規定している、各製品化ステージにおいて実施する内容は下図に示す通りです。



「環境配慮設計基本規則」は、製品に関する環境配慮項目を明確にし、製品化の各ステージで評価する事項を定めています。富士フィルムの環境配慮設計は、製品の全ライフサイクルを対象とし、LCA（ライフサイクルアセスメント）評価も取り入れました。そのためLCA標準手法も併せて策定しました。

また、容器・包装に関する環境負荷の削減も特定課題とし、総合的な環境配慮設計を目指しています。

2001年1月からは、宮台技術開発センターおよび足柄研究所で試験的に「環境配慮設計基本規則」の運用を行い、その評価手法としてのLCA手法の標準化トライアルを感材機器、「写ルンです」、カラーネガ、カラーペーパーについて実施しました。2002年からは「環境配慮設計基本規則」の正式運用を開始しています。